

## 森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート第 74 号』

### 「子育てしやすい街の条件」

———100人のママに聞きました———

森永乳業は、時代とともに変化する母親像の理解に役立つことを願い、1993年4月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番」\*への相談内容から、毎回育児に関する傾向についてまとめています。

中でも2009年1月に発行したエンゼル 110 番レポート第 56 号「ここが困った！子連れ外出事情」は大反響で、「エンゼル 110 番」のウェブサイトはそれまでの1ヵ月間でのアクセス件数を1日で超える日もありました。また、2008年3月に「エンゼル 110 番」のウェブサイト内コンテンツ「とっておき 育児のコツ」に掲載した「子育てしやすい街は？」は、現在でもアクセス件数の多いページで、関心の高いテーマと思われます。不動産会社のサイトやメディアなどでも、「子育てしやすい街」というのはよく目にします。医療費補助や子育て支援内容、保育園の空き状況など目に見える情報が取り上げられているように感じますが、ママたちの関心はどうなのでしょう？

今回は、「エンゼル 110 番」を利用するママたち 100 人に「子育てしやすい街の条件」に関するアンケートを実施しました。

#### 【主なアンケート結果】

- 「子育てしやすい街」の条件として重要だとママが感じるのは「行政支援の充実」
- 今住んでいる地域は「子育てしやすい」と感じるママは 100 人中 64 人
- 今住んでいる地域のよいところは「環境」、「行政支援」がそれぞれ約半数
- 今住んでいる地域の改善してほしいところも「行政支援」が約半数

#### \* エンゼル 110 番とは…

1970年代は、高度成長期に核家族が急増し、育児環境が大きく変化した時代でした。その社会状況を背景に「子育て奮闘中のお母さんたちのお役に立ちたい」という思いから、**1975年5月に、無料の育児相談窓口『エンゼル 110 番』を開設**しました。今年2015年で40周年を迎え、今までにお受けした電話相談は90万件を超えました(2015年1月)。相談内容は、「何をどれだけ食べさせればよいか」といった“食生活”や「子どもを育てる自信がない」といった“相談者自身”に関してなど多岐に渡ります。相談員は、不安・悩み・疑問を抱えた方たちの話を聴き、一緒に考えることで育児の不安を取り除くことを基本姿勢としています。

また、2014年4月からは、フリーダイヤル化し、より気軽にご相談いただけるようになりました。

#### ◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象 妊娠中～小学校就学前まで  
相談員数 19名(保健師、管理栄養士、心理相談員 等)  
ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>



#### 本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<報道関係者からのお問い合わせ先>

森永乳業株式会社 広報部 高橋 Tel.03-3798-0126

<お客さまからのお問い合わせ先>

育児に関する無料電話相談「森永乳業エンゼル 110 番」フリーダイヤル 0800-5555-110

※受付時間:月～土曜日(日曜、祝日除く)、10～14時

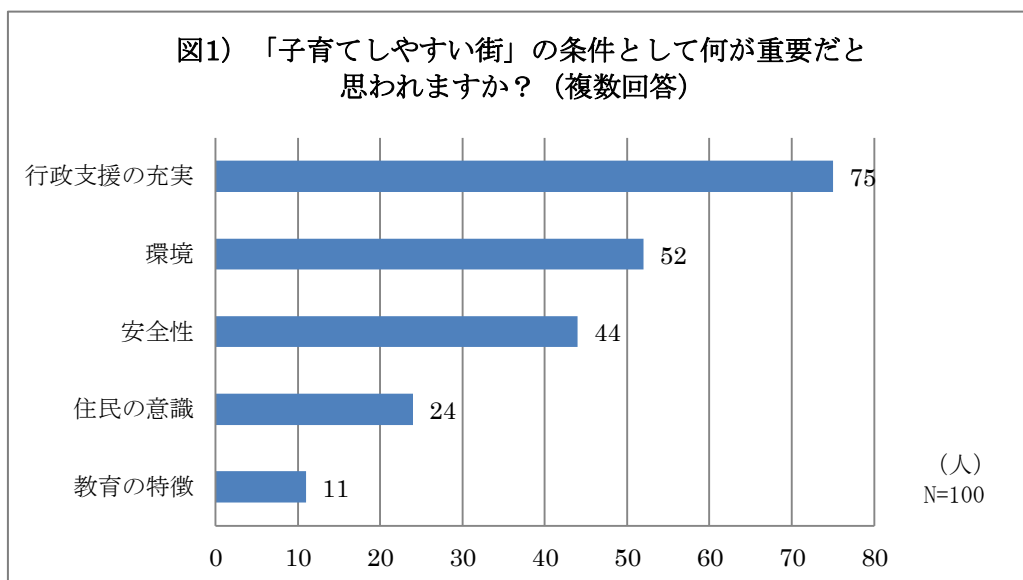
<エンゼル 110 番ウェブサイト> <http://www.angel110.jp/>

今回のテーマ「子育てしやすい街の条件」

—100人のママに聞きました—

「子育てしやすい街」の条件として重要だと感じるのは「行政支援」がトップ

Q1. 「子育てしやすい街」の条件として何が重要だと思いますか？（複数回答）



<参考>具体的な内容

① 行政支援の充実

- ・ 幼稚園・保育園や託児所が多い
- ・ 子育て支援事業拠点を含め公共施設が多く、利用しやすい
- ・ 一時保育やファミリーサポートが利用しやすい
- ・ 乳幼児の医療費無料の他、支援サービスがいろいろある（中学生まで医療費助成がある・住宅購入支援金が貰える・保育園の送迎サービスが利用できる 他）

② 環境

- ・ 公園など、自然の遊び場が多い
- ・ 大型のショッピング施設が近くにある
- ・ 駅や公共施設などにエレベーターやスロープが設置されており、ベビーカーでも利用しやすい
- ・ 周囲に子育て世代が多い
- ・ 職場が近い（配偶者も含む）
- ・ 実家が近い

③ 安全性

- ・ 事故や事件が少なく、治安がよい

④ 住民の意識

- ・ 地域住民が子育てに理解がある

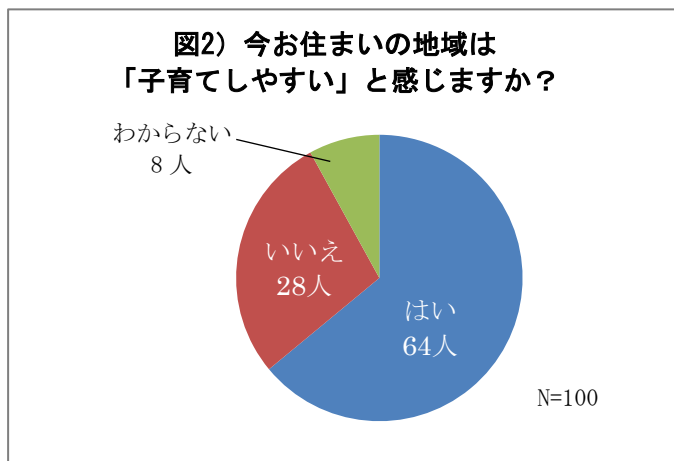
⑤ 教育の特徴

- ・ 学校が選べる、小中一貫教育や英語教育など教育に特徴がある

最初に「子育てしやすい街」の条件を5つあげ、ママたちに選んでもらいました。最も多かったのは「行政支援の充実」で100人中75人があげています(図1参照)。「現在、待機児童で困っているため」(埼玉県)、「一時保育も2歳以下は給食を挟んで、午前午後の預かりで3000円。収入に関係なく一律の金額で利用しにくい」(大阪府)、「隣の市は病児保育もあるし、求職中でも保育園に申し込み、収入制限はあるが無料で一時保育を利用できるらしい」(大阪府)など保育の問題や、「新生児訪問のときに『伺うのは1回限りで、後は何もないですから』と断言された。その通りで出向いてくることはない」(千葉県)、「心配性なので、複数回訪問してほしい」(埼玉県)といった各自治体の支援など、「行政支援の充実」についてのママたちの関心は高いようです。次いで「小児科の病院が近くにないと心配。駅やスーパーなど、ライフラインも重要」(北海道)など「環境」が52人、「安全第一だと思う」(栃木県)など「安全性」が44人と続きました。「住民の意識」は24人があげましたが、「地縁が薄れてきている。核家族で、地域への関心が薄れることで治安なども悪くなると思う」(埼玉県)など、「住民の意識」と「安全性」が密接にかかわっているという意見もありました。「エンゼル110番」の相談対象が“妊娠中から小学校入学前”のためか、「教育の特徴」は11人に止まりました。

**今住んでいる地域は「子育てしやすい」と感じているママが100人中64人**

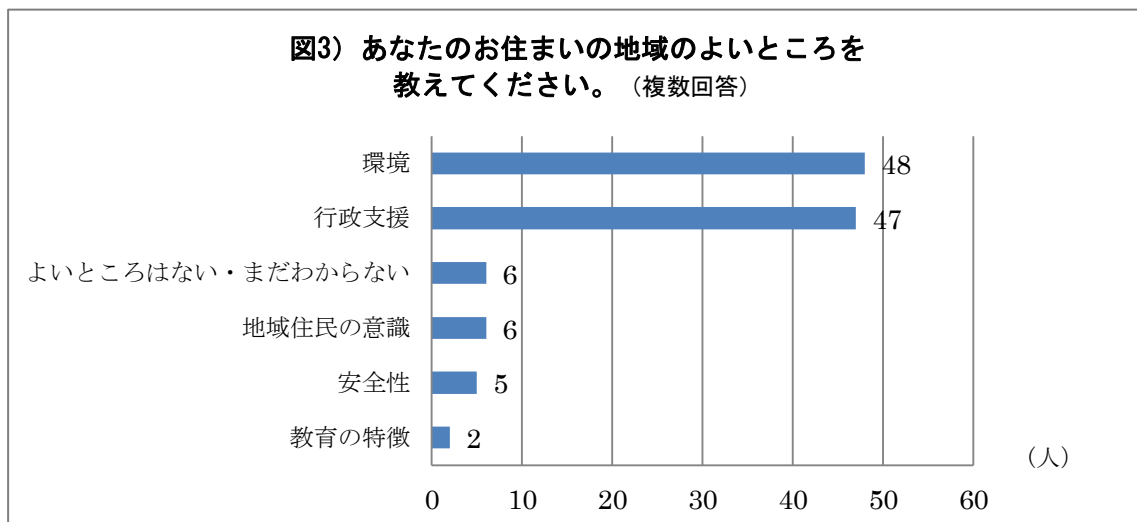
Q2. 今お住まいの地域は「子育てしやすい」と感じますか？



次に、今住んでいる地域が「子育てしやすい」と感じているかどうか、伺ってみました(図2参照)。すると64人が「はい」と答えました。「まずまず」「すごくというわけではないが」「子どもの年齢や、ママが仕事をしているかどうかで考え方は変わると思う」など、「どちらかといえば」という消極的な肯定も含んでいます。

**よいところは「環境」と「行政支援」、改善してほしいところも「行政支援」**

Q3. あなたのお住まいの地域のよいところと、改善してほしいところを教えてください。



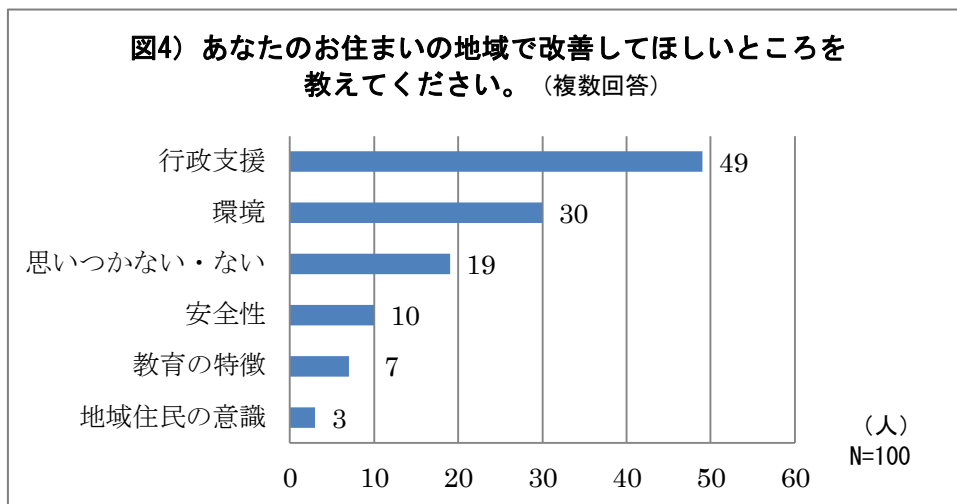
次に、住んでいる地域のよいところをあげてもらいました。多かったのは「環境」が 48 人、「行政支援」が 47 人で、この 2 項目に集中しました。他には「よいところはない」「まだわからない」と「地域住民の意識」が 6 人ずつ、「安全性」が 5 人、「教育の特徴」が 2 人でした(図 3 参照)。

「環境」では、「自然環境に恵まれている」(群馬県)、「田舎なので自然が豊か。のんびりしている」(徳島県)、「緑がたくさんある」(栃木県)など“自然”に関する意見が最も多く、16 人でした。次いで「公園が多い」(東京都)、「大きな公園が何ヶ所もある」(埼玉県)、「徒歩で行ける公園も多い」(愛知県)など“公園”に関する意見が 13 人でした。3 番目に多くあげられたのは、「小児科が複数ある」(東京都)、「小児科や耳鼻科など、行きやすい病院がたくさんある」(大阪府)など医療機関が多く通いやすいことで、7 人でした。他には「子どもが多い」を 6 人、「買い物に便利」を 5 人があげています。

「行政支援」では、「子育て広場を開放している」(千葉県)、「支援センターが多く、利用しやすい」(和歌山県)、「未就学児が集まるところが多い」(神奈川県)など育児支援拠点の充実をあげたママが最も多く、47 人中 28 人でした。次いで「保健センターが利用しやすく、保健師に相談しやすい」(栃木県)、「保健師がよく話を聞いてくれる」(滋賀県)、「保健センターから母子教室の案内があり、孤立感はない」(石川県)などサポート体制が 12 人でした。他には「待機児童ゼロ」(愛媛県)、「待機児童が少ない」(島根県)、「保育園は整っているほう」(埼玉県)など保育の充実が 5 人でした。地域差が多いといわれる「医療費が無料」を具体的にあげたママは 3 人でした。

#### 【HOT VOICE】

- ・ 病院、スーパー、支援センターなどが全部近くにあり、理想的。(北海道)
- ・ 街がこじんまりとして、役場に聞くと親切にいろいろと教えてくれて助かる。住民も優しい。気軽に声をかけてくれる。(青森県)
- ・ 子連れが多い地域で、街やスーパーに行っても自然に周りの人から手助けがある。(大阪府)
- ・ 待機児童ゼロ。産前産後には 1 時間 500 円でヘルパーを利用できる。(愛媛県)
- ・ 行政支援が充実している。同じ子育て世代の人が集まる場所も多い。教育もいろいろ選択肢がある。古い住民と新しい住民が半々で、お年寄りからよく声をかけられる。(神奈川県)
- ・ 市民税が安く、治安もよい。(大阪府)
- ・ 支援センターは車で 10 分くらい。住宅補助もあり、行政支援は充実している。(大分県)
- ・ 小児科が複数ある。道路の道幅が広く平坦なので、ベビーカーで歩きやすい。(東京都)
- ・ 100 円バスで児童館に行けて便利。(埼玉県)
- ・ 医療費が無料。支援施設が多く、イベントもあって行きやすい。(兵庫県)
- ・ 子どもが多い。公園もあり、バリアフリー化も進んでいる。また子育て支援サービスも充実している。(神奈川県)
- ・ 児童館が近くにあり、利用しやすい。子育て支援券(4 万円分)の支給があり、一時保育などに使える。東京都 23 区内で比較しても充実している。(東京都)



最後に、改善してほしいところをあげてもらいました。最も多かったのは「行政支援」で 49 人、次いで「環境」が 30 人、「思いつかない・ない」が 19 人、「教育の特徴」が 7 人、「地域住民の意識」が 3 人でした(図 4 参照)。

「行政支援」では、「保育園不足。4～5 歳までいっぱい、働けない」(宮城県)、「保育園や幼稚園が少ない。『待機児童ゼロ』と行政は言っているが、実際に入園させるのは大変」(神奈川県)、「10 月頃に入園できなかった。仕方なく一時保育で復職したが、一時保育までにも時間がかかった」(新潟県)など、待機児童の解消を 19 人があげました。働くママにとって保育の確保は切実な問題であり、「特に 0～1 歳は病気になったときに定員オーバーだからと病児保育を断られて困った。一時保育や病児保育に確実性が欲しい」(島根県)という声もありました。働いていないママにとっても「一時保育は 1 週間前に予約が必要。緊急時に利用しにくい」(千葉県)、「転勤族なので、実家など頼るところがない」など、いざというときにこそ利用しやすいサービスが望まれているようです。他には「支援センターが遠い。近くに遊べる場所がない」(東京都)、「屋内の遊び場がない。雨の日に困る」(宮城県)など、支援拠点の増設を 10 人、医療費の無料化を 4 人があげていました。

「環境」では、「近くのスーパーがつぶれてしまい困っている」(群馬県)、「大型のショッピング施設がない」(山梨県)など買い物の不便さを 8 人、「田舎なので車がなければだめ」(千葉県)、「バスの便が少なく、車が必要」(山形県)などの交通手段の不便さを 6 人があげました。また、行政の街づくりとも関連しますが、「近くに公園がない」(千葉県)、「公園があっても、昔のようにサッカーや野球などのボール遊びができない」(新潟県)など、子どもの遊び場不足を 7 人があげています。他には「信頼性の高い病院は行列ができるほど混んでいる。地域的な問題として、子どもの大きな病気は県内では対応できない」(島根県)といった病院の不足を 4 人があげていました。

### 【HOT VOICE】

- ・ 子育て支援サービスの情報が少ない。以前住んでいた市では、子育てハンドブックが郵送されたり、出生届を出したときに手渡されたりしたが、今の市は市役所に行った際にたまたま見つけた。口コミに頼るしかない。(埼玉県)
- ・ 幼稚園に入れない。急にマンションができて子どもが増えたため、公立幼稚園も1クラスで抽選。切実な問題。一時保育も断られた経験がある。町中なので交通量も多いし、人も多いので、子どもが成長すれば便利かもしれないが、子育てにはよくない。周囲も子育てに理解のある人が少ない。双子用のベビーカーが、エレベーターなどで嫌がられる。(大阪府)
- ・ エレベーターやおむつ替えスペースが少ない。ベビーカーが邪魔とばかりに、すぐに舌打ちされる。エレベーターに他の人が乗ってしまい、あぶれて乗れないことがある。(神奈川県)
- ・ 東京都と比較すると、行政支援が少ない。歩道が整備されておらず、ベビーカーで歩きづらい。(青森県)
- ・ 育休をもらって1年間家にいた。助産師がベビーマッサージに一度来てくれたが、他にもっと遊びを教えて欲しかった。どうしても家にこもりがちになってしまう。(栃木県)
- ・ 道路が混んでいる。1車線なのに車が止まっていて、車が運転しづらい。児童館も遠く、スーパーもない。実家が遠く友人もいないので、頼るのは行政サービスのみ。自分から出て行かないと、孤立してしまう。(愛知県)
- ・ 税金が高いのに、乳幼児の医療費無料に所得制限があり受けられていない。全員受けられるようにしてほしい。(和歌山県)
- ・ 大きな町ではないので、移動手段はバスか車。駐車場の問題がある。ただ行政ばかりには頼れないと思う。際限なくお金は出せないで、自己努力も必要。(埼玉県)
- ・ 指定区域外の小学校には行きにくい。選択肢を広げてほしい。(富山県)

### まとめ

今回のアンケートでは、関東地方在住の方が51人と過半数を占めましたが、33都道府県のママから回答を得られました。「エンゼル110番」の利用者は小さいお子さんのママが多く、「子育てしやすい街」の条件としては「行政支援の充実」や「環境」に関心が高く、現在住んでいる地域のよいところや改善して欲しいところなども同じような結果となりました。また、「改善してほしいところは、今のところ思い当たらない。子どもの年齢があがってくると、出てくるかもしれない」というママの声に代表されるように、子どもの年齢や家庭の状況に応じて「子育てしやすい街」の条件は変化していくものと思われます。

100人中64人が今住んでいる地域を「子育てしやすい」と答えていましたが、アンケートを通して、保育園の整備や乳幼児の医療費無料化、地域住民の子育てへの理解など、子育てを取り巻く環境は地域格差が大きいということを感じました。以前から東京都23区は子育てへの行政支援が充実していると言われていましたが、東京都23区以外でも充実が図られている市区町村があることがわかりました。

「エンゼル 110 番」に寄せられる相談では、子育てに疲れ、相談員が一時保育を必要と感じるママこそ、一時保育の利用料がネックになったり、保育枠に限りがあり利用回数の制限があったりと難しいことが多いように感じています。また、子どもの泣き声に追いつめられ、近隣の耳におびえるママも少なくありません。必要な人が必要な形で支援を得られる社会ができれば、きっと日本中が「子育てしやすい街」になるのではないのでしょうか。

## 調査の概要

- 対 象 : 「エンゼル 110 番」に電話をいただいたママ 100 人
- 調 査 方 法 : 電話による聞き取り調査
- 調 査 期 間 : 2015 年 6 月 1 日～7 月 31 日
- 対 象 者 の 属 性 : 「母親の年齢」20 代…23 人、30 代…67 人、40 代…9 人、不明…1 人  
「子どもの年齢」3 ヶ月以下…7 人、4～7 ヶ月…33 人、  
8～11 ヶ月…20 人、1 歳以上…40 人  
「居住地域」関東…51 人、関西・中国…27 人、中部・甲信越…13 人  
東北・北海道…5 人、四国・九州…4 人

## エンゼル110番レポートのバックナンバー

第1号（93/4月）『離乳食』	第37号（02/9月）『テレビやビデオをどのように見せていますか』
第2号（93/7月）『初めての泊まりがけ旅行』	第38号（03/1月）『夫の育児参加と妻の満足度（その2）』
第3号（93/10月）『胎教』	第39号（03/4月）『子育てにインターネットを活用していますか？』
第4号（94/1月）『お年玉』	第40号（03/7月）『子育てコストとママの生活満足度』
第5号（94/5月）『夫の育児参加と妻の満足度』	第41号（03/12月）『ママたちの育児スタートー産後に望む支援サービス』
第6号（94/8月）『妊娠中の食事について』	第42号（04/4月）『子育てママの喫煙・禁煙』
第7号（94/11月）『育児雑誌を読みますか』	第43号（04/9月）『信頼できる育児の情報源とママたちの満足度』
第8号（95/2月）『早期教育は必要ですか』	第44号（04/11月）『ママたちの産院選びと立会い出産の実態』
第9号（95/5月）『赤ちゃんのアレルギー、気になりますか』	第45号（05/3月）『妻の実家・夫の実家、どう付き合っていますか？』
第10号（95/8月）『どんな出産をしましたか』	第46号（05/7月）『赤ちゃんのアレルギー、気になりますか？』
開設20周年記念冊子（96/10月）『60万件の電話相談から』	第47号（05/11月）『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか？』
第11号（95/11月）『子育て費用をどう考えますか』	第48号（06/4月）『子育てママの携帯電話活用法』
第12号（96/2月）『子どものこと夫婦で話していますか』	第49号（06/7月）『子ども連れて初めての泊りがけ旅行』
第13号（96/10月）『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか』	第50号（06/11月）『子どもは何人ほしい？』
第14号（96/12月）『理想の父親像と母親像』	第51号（07/2月）『子どもに習い事をさせますか？』
第15号（97/4月）『子育て中のお母さんの自由時間』	第52号（07/8月）『「3歳児神話」をしていますか？』
第16号（97/6月）『子どもを預けたことはありますか』	第53号（08/1月）『子どもを預けたことはありますか？（その2）』
第17号（97/9月）『子育て中のストレス解消法』	第54号（08/4月）『「お母さんになった」と初めて感じたのは？』
第18号（97/12月）『かかりつけのお医者選び』	第55号（08/9月）『結婚前の料理経験はどれくらいですか？』
第19号（98/4月）『“格好いいお母さん”が当たり前？』	第56号（09/1月）『ここが困った！子連れ外出事情』
第20号（98/6月）『35歳からの子育て』	第57号（09/5月）『不況に負けない！ママの明るい節約術』
第21号（98/9月）『これからはママもパソコン使います』	第58号（09/9月）『孫育て』
第22号（98/12月）『35歳からの子育て パートII』	第59号（09/11月）『ママ友とのおつきあい、どうしてますか？』
第23号（99/3月）『実家とどうつきあっていますか』	第60号（10/5月）『夕飯の献立どうやって考えていますか？』
第24号（99/6月）『子どものアレルギーについて』	第61号（10/8月）『子育て支援で、本当にしてほしいことは？』
第25号（99/9月）『子ども連れのお母さんが見た街作り』	第62号（10/11月）『パパはイクメンですか？』
第26号（99/12月）『子育てが楽しいと感じる時』	第63号（11/2月）『35年で変わったこと、変わらなかったこと』
第27号（2000/3月）『離乳食は得意ですか』	第64号（11/5月）『育児日記をつけていますか？』
第28号（00/6月）『子育て仲間はどこで見つけましたか？』	第65号（11/9月）『ママたちの節電対策』
第29号（00/9月）『子連れで海外旅行に行きましたか？』	第66号（12/1月）『今、大切にしたいもの』
開設25周年記念冊子（00/10月）『医療関係者向アドバイスブック』	第67号（12/6月）『育児で心配になったきっかけとその解決方法』
第30号（00/12月）『私たちのミレニアム・ベビー』	第68号（12/11月）『子育てママのお正月』
第31号（01/3月）『ママたちのIT革命』	第69号（13/3月）『名づけ』
第32号（01/6月）『子どもが生まれて夫婦関係が変わりましたか？』	第70号（14/5月）『赤ちゃんを抱っこしたことはありましたか？』
第33号（01/9月）『妊娠してからの食生活の変化』	第71号（14/12月）『母乳への意識』
第34号（01/12月）『絵本の読み聞かせをしていますか』	第72号（15/4月）『現代のママ事情』
第35号（02/3月）『育児日記をつけてますか』	第73号（15/7月）『「食べない子」「食べ過ぎる子」のママの悩み』
第36号（02/6月）『ママたちの再就職事情』	